鳥取県西部医師会　第８回　在宅医療推進委員会

日　時：平成２４年７月２５日（水）
午後７時３０分～
場　所：鳥取県西部医師会館　３階　講堂

委員（敬称略、五十音順、（　）内事前欠席連絡あり）
【西部医師会】委員長：野坂美仁、安達敏明、石川　直、石井敏雄、越智　寛、面谷博紀、
小林　哲、下山晶樹、田辺嘉直、辻田哲朗、鳥羽信行、野口俊之、飛田義信、吹野陽一、
寳意規嗣、細田明秀、松野充孝、三上眞顯、都田裕之、（佐伯俊哉、福田幹久、藤瀬雅史）
【山陰労災病院】岸本幸廣、神戸貴雅、豊田暢彦、（松ヶ野　恵）
【米子医療センター】松永佳子、山根成之、
【博愛病院】（楠本智章）
【済生会境港病院】佐々木祐一郎、
【真誠会】小田　貢、小山雅美、
【鳥取大学医学部】（谷口晋一）
【鳥取県】健康医療局：藤井秀樹、長寿社会課：日野　力、健康政策課：大口　豊、
医療指導課：國米洋一、米子保健所：大城陽子、
【訪問看護ステーション博愛】（石橋佐智子）
【居宅介護支援センターやわらぎ】（生田眞由美）
【米子住吉・加茂地域包括支援センター】岩田美幸

１　開会

２　協議事項
（１）実態調査報告書について経過説明（飛田）
・「ニーズがない」について
・今後のアンケートの生データの取り扱いについて；現場に届ける　←　要再承諾

（２）開業医向けサポート；三上先生起案提案について
・より早い段階から第二の主治医、在宅の主治医をつくるシステム作り
・病院勤務医サイドから早期に患者さんへの働きかけ
★病院勤務医間での情報共有
★病院勤務医と開業医の信頼関係の構築と強化

在宅医療に取り組む先生方へのサポート
①自分が不在になるときに代診がほしい。
②交代で休暇が取りたい。

【飛田先生提案；在宅療養支援診療所としての届け出と連携】

これから在宅医療に取り組もうとする先生方へのサポート
①自分が不在になるときに代診がほしい。
②交代で休暇が取りたい。
③在宅看取り初体験では診療報酬のとり方や死後処置を含めたサポートがほしい。
④緩和医療、麻薬使用についての基礎からの講習。
⑤在宅看取りをふめた在宅医療全体についての意見交換や研修の場の提供。
－③、④、⑤については、これまでもいろいろな講演会等は開催済み。
しかし、「未だニーズがない」と皆さん参加されていません。
アンケート上の答えであって、実態はどうでしょうか？

三上先生がご提案の「副主治医制度または指導医制度」についても、この指とまれと差し出しても誰も掴まらない可能性大。

どのようにインセンティブを高めるか？
→患者・住民側からニーズ（「ワシを私を看取ってごしないよ」）を云われたら、医師会員は潜在能力はあるので、おのずと取り組んで頂けるのではと思います。（野坂）
その時の為の、
・核となる看取り経験豊富な在宅医師と緩和医療や麻薬使用などのサポート部隊の創設
・往診可能な整形外科医、眼科医、皮膚科医といった専門医の参加システム
でしょうか。
・メーリングリストを使った情報交換システムが有効？（セキュリティーの問題はあり）
・医師会、病院、行政の持つ情報を連携して【有効なモノ】へ

（３）対住民対策
開業医・勤務医・住民への「在宅死」へのコンセンサス作り
（もう病院では死ねなくなる。）
（病院は死ぬ場所ではない）
（「なにかあったらすぐ病院」は通用しなくなる）
・医師会と各病院との連絡協議会で何かアクションを練る
・腹水でパンパンの肝がん末期の在宅療養希望の患者さんへ
「そんなんでは帰れないよ」と云う勤務医
・対策案⇒在宅死(数年先でもいつかはあの世へ行く)を見据えて、当初から在宅看取り医と繋がり作り
・住民への働きかけ
⇒死をタブー視しないで、元気な時から最後について話し合う
・病院では死ねなくなる
・「あの世へのパスポート」「エンディング・ノート」
・住民へのアンケート、講演会、フォーラム、

・死に逝く人の道しるべ（医療と宗教の協働）←文芸春秋　奥野医師から
・学生へのアプローチ
・中山間地の独居老人
・訪問看護ステーションの状況調査と連携・支援
・地域包括ケアシステムについての理解

（４）追加；報告
・「在宅医療連携拠点事業」
　復興枠（真誠会）
　一般枠（米子医療センター）

３　閉会